

学校図書ボランティアの部屋

～ 情報交換と交流の会 ～

平成 17 年 12 月 15 日

@山内地区センター

参加者： 29 名
青葉区内小学校 14 校
の図書ボランティアの
皆様

主催：あおば学校支援
ネットワーク

目次

こんにちは！ 2

第1部 セミナー

セミナーⅠ 図書環境整備 3

セミナーⅡ ブックトーク 5

第2部 Tea and Talk

読み聞かせ 8

図書環境整備 9

こんにちは！

あおば学校支援ネットワーク（Aoba School Support Network：ASN）です。「あおば学校支援ネットワーク（ASN）」は、学校・教育支援活動に関わるボランティアと学校をつなぐコーディネーターとして、子どもたちの視点にたったより良い学校教育活動を支援することを目的に、平成17年4月に結成いたしました。

私たちの活動のひとつとして、昨年12月に青葉区内の小学校で図書に関わる活動をしているボランティアの皆様の交流と情報交換の会を開催いたしました。区内の小学校のうち約半数の学校から29名の方に参加いただき、セミナーとグループディスカッションを行いました。このたび交流会で話し合われた事柄やセミナーで講師の方にお話いただいた内容をまとめ冊子を作成しましたので、皆様の今後の活動の一助にさせていただければ幸いです。あおば学校支援ネットワークでは、今後も子どもたちに本を読むことの楽しさを伝える活動のお手伝いをしてまいります。



第1部 セミナー

セミナー I

あざみ野第二小学校 風早しずかさんに聞く『図書環境整備』

第一部のセミナー I では、あざみ野第二小学校教育ボランティア「ブックママ」の風早しずかさんに図書室の環境整備について具体的な活動内容をお話いただきました。

「ブックママ」は、お話会の教育ボランティア「どんぐりこ」より派生して2001年に誕生し、図書室整備中心に活動されています。

① 図書ボランティア『ブックママ』の位置づけ

あざみ野第二小学校には「教育ボランティア」という学校ボランティアシステムがあります。これは様々な分野で保護者や地域の方などボランティア活動をしたい方が学校の募集に応じて教育ボランティアとして応募・登録し、学校の要請に基づいて活動するシステムです。あざみ野第二小の図書ボランティアは、『ブックママ』という名前で図書室の整理などをするグループとして団体登録しています。現在ブックママの登録者は地域の方や保護者合わせて30人ほどです。ちなみに図書関連では『どんぐりこ』という読み聞かせのグループも団体登録しています。個人や団体登録者の管理は教育ボランティア担当の先生が行い、図書室における実質的な活動については司書の先生と連携をとって活動しています。

② ブックママの活動内容

ブックママの活動スタンスは、「したいときに、したい人が、したい範囲です」ということですので、ネームタグとエプロンを着用の上、様々な作業やミーティングなどに自由に参加することができます。

ブックママでは毎月15日に全体作業とミーティングを行っています。また情報を共有する目的で毎月25日にメンバー向けのレターを発行し、メンバーはも

もちろん校長先生始め関連の先生方にもブックマムの活動の様子をお知らせするものとして配布しています。図書室にも掲示していますので、図書委員はじめ図書室の利用者は読むことができます。

ブックマムでは学校から謝礼をいただいております、それを活動費に当てています。備品の購入、中古本の購入、メンバーの講習会への参加費などを支出しています。

活動の具体的な内容

- i 図書の先生からの依頼で、図書室の図書の整理や修理、児童図書委員が行っている中休み当番の補佐として貸出・返却のカウンター業務のお手伝いをしています。
- ii それ以外にボランティアからの提案をもとに、皆で話し合っってプロジェクトを組んで活動しています。現在稼働しているプロジェクトは3つあります。
 - ・ 「選本プロジェクト」では、図書室にリクエストボックスを置き、子どもたちのリクエストからブックリストを作っています。このリストは業者から図書を購入するときに役立てています。また活動費の中から中古本を購入し、ブックマムの寄贈本としています。
 - ・ 「学習支援プロジェクト」では、絵本の目録作成や資料のファイリングをしています。
 - ・ 「装飾プロジェクト」では、季節の飾り付けや時節に応じた図書の面だしなどを行っています。
 - ・ 過去のプロジェクトとしては、新一年生に向けての「図書室オリエンテーション」、小型本の本棚作り、活動マニュアル作りなどがあります。今後は修理プロジェクトも考えていきたいです。

③ 活動を通して感じること

ブックマムが教育ボランティアとして活動を始めて5年になります。学校ボランティアにおいて、ボランティアをする側と受ける側の相互の理解と経験が大切で、またお互いにより快適に、より有意義に活かしあっていくためにはその橋渡しをするコーディネーターの存在が必要です。このような交流会を主催

したあおば学校支援ネットワークの今後の活動に期待したいところです。

【ASNより】

風早さんには図書ボランティアの活動の様子やたくさんのお話を簡潔に分かりやすくお話いただきました。参加者の方からも、「参考になった」「充実したお話を伺えた」とのコメントをたくさんいただきました。あざみ野第二小学校のような先進的な学校でも図書がバラバラの状態からスタートし、図書の分類、書架の整理と複本の抜き出し、また勉強会や情報の収集と一つひとつの地道な積み重ねがあったことがよく分かり、他校の参加者の皆さんの励ましになればと思いました。

セミナーⅡ

恩田小学校 山口奈保子さんが語る『ブックトーク』

第一部のセミナーⅡでは、恩田小学校図書ボランティアの山口奈保子さんにブックトークをしていただきました。ブックトークとは主に子どもを対象にひとつのテーマに沿って何冊かの本をいろいろな角度から紹介し、読書の幅を広げ、本の楽しさを知ってもらう方法です。

今回のデモンストレーションでは『手紙』をテーマに、「ふたりはともだち」（アーノルド・ローベル）、「フェリックスの手紙」（アネット・ランゲン）、「てがみはすてきなおくりもの」（スギヤマカナヨ）、「あいうえおてがみ」（やましたはるお）、「ぺちゃんこスタンレー」（ジェフ・ブラウン）、「きょうりゅう一ぴきください」（竹下文子）の6冊を取り上げていただきました。紹介された6冊の本はバラエティーに富み、一番面白い部分をちらりとふれるだけで、どの本も「読みたい」という思いに駆られました。山口さんは中休みに5冊程度の本を15分から20分くらいの時間で紹介しているとのことでした。

「ふたりはともだち」(アーノルド・ローベル)

陽気でしっかり者のかえるくんと少々おっちょこちょいでのんびり屋のがまくんは大の仲良しです。今までお手紙をもらったことのないがまくん。そのことを知ったかえるくんは、がまくんに内緒でお手紙を書きました。でも、配達を頼んだのがかたつむりくんだったので、ふたりは一緒にお手紙が届くのを待つことにしました。お手紙を待つ間、二人はとても幸せな時間を過ごしました。

「フェリックスの手紙」(アネッテ・ランゲン)

夏休みの旅行中、ソフィーの大切にしていたぬいぐるみのウサギのフェリックスが、突然いなくなってしまう。フェリックスは赤ん坊のころからの親友だったのでソフィーはすっかりしょげ返ってしまいます。新学期のある日、ソフィーあての手紙がロンドンから届きます。なんとそれは、フェリックスからの手紙だったのです。大切な人から手紙をもらうドキドキ。封筒を開くときのわくわく。そんなお手紙とっても楽しみだね。

「てがみはすてきなおくりもの」(スギヤマカナヨ)

手紙はもらうのもうれしいけど、書いたり出したりするのも楽しいよね。こんな素敵なのはがきはどうかな？はっぱや貝がらのはがき、アイデアいっぱい手作りカード、声やかおりのメッセージ、切手を選ぶ楽しさ…。ささやかだけれどそれは世界にひとつの贈りもの。気持ちをこめて時間をかけて、あなたはだれにどんな手紙を送りますか。皆も工夫して色々な手紙を書いてみてね。

「あいうえおてがみ」(やましたはるお)

とっても不思議な手紙をもらったのはかえるのけろくんです。ある日けろくんは差出人不明の手紙を受け取りました。それはとても不思議な手紙です。「あいうえお」からはじまり次の日は「かきくけこ」というように毎日郵便受けに入っているのです。けろくんは届くたびに誰からきたか推理して返事の手紙を書きました。そしてけろくんにみんなからの返事がまとめて届いた時……。誰がこの不思議な手紙を出しているんでしょう？そして差出人が分かったけろ

くんはどんな返事を書いたかな。

「ぺちゃんこスタンレー」(ジェフ・ブラウン)

手紙は出すのももらうのもうれしいけど、これは自分が手紙になって配達されたスタンレー君のお話です。朝起きたら、掲示板の下敷きになってぺちゃんこになっていたスタンレー。身長 122 センチ、横幅 30 センチ、厚さ 1.3 センチになってしまったスタンレーが、荷物にまぎれて冒険をするんだ。

「きょうりゅう一ぴきください」(竹下文子)

次にサンタクロースに手紙を書くお話を紹介します。

「ことしのクリスマスには、きょうりゅうをください。ほんもののきょうりゅうを一ぴきください。だって、ぼくはきょうりゅうがだいすきなんだもん」と、サンタクロースに手紙を書いたぼく。恐竜が家にきたら……お風呂、ごはん、郵便やさんが来た時は……散歩にだって連れて行く……と、どんどんきょうりゅうといっしょに過ごす時のことが僕のなかで膨らんでいくんだ。

今日は皆に 6 冊の手紙の本を紹介したけど、この本は図書室のコーナーにおいておくから手にとって読んでみてね。それから、他にももっと色々なお話が学校の図書室にあるから皆も探してみてね。

【ASN より】

ブックトークを行うには、幅広い本に関する知識や経験などの高い専門技術が必要としますが、子どもたちが多くの本に出合えるように子どもと本をつなぐお手伝いとしてとてもやりがいのある活動です。思いをこめて本を選び、自分の言葉で本に対する興味や思いを伝えることによって、子どもたちの本全体に対する読書意欲を高めることがわかりました。子どもたちの興味関心は千差万別で、その子どもたちの多様性に配慮している点や、「読みたい本を読む」という子どもの自由意志に任されているところに読み聞かせとは違った楽しさを感じました。参加者は小学生になった気持ちになり、あっという間の楽しいひと時でした。

第2部 Tea and Talk

第2部では、読み聞かせ、図書環境整備の二つのテーマに分かれて、少人数のグループでそれぞれのテーマに沿ったディスカッションを行いました。様々な学校から参加者が集まった交流会ならではの話し合いやお互いの事例紹介が行われ、とても活況な情報交換会になりました。グループによっては悩み相談室のような様相を呈したり、その後に学校図書館訪問があったりと皆様にとって有意義な交流会になったのではないのでしょうか。

〔グループA～読み聞かせ～〕

参加者のそれぞれの活動紹介を交えながら情報交換を行い、活動の頻度やメンバー構成、また学校側の体制など様々な状況があることを知る機会になりました。

多かった意見は高学年対象の読み聞かせに対する苦手意識を持つ方が多いというものです。読み聞かせの初心者は反応が大きく単純である低学年対象の活動が安心できる傾向にあります。複雑なお話の内容や意図が理解できることに高学年の読み聞かせの楽しみがあるというアドバイスや、高学年向きの本の紹介があり、今回の交流会のようにさまざまな交流や講習を通じて経験者から学ぶ機会の重要性を感じました。

また、山内図書館で行われている読み聞かせ・おはなし会の練習の場「虹の部屋」(毎月第4水曜日開催)の案内や、各自の最近のおすすめ本の紹介があり、今後の活動に生かせるヒントを得ることができました。

【参加者によるおすすめの本】

「あらしのよるに」きむらゆういち作

(6巻シリーズに加え、11月に「まんげつよるに」発刊)

「ともだちや」内田麟太郎作

(ともだちって何だろうと考えることができる)

「おまえうまそうだな」 宮西達也作

(お父さんに間違えられた大きな恐竜と赤ちゃんの愛情の物語)

「まじめなフレッドおじさん」 ティム・イーガン作・もきかずこ訳

(農場の動物たちはフレッドおじさんを笑わせようと考えますが・・・)

[グループB～読み聞かせ～]

Bグループでは、それぞれの学校における読み聞かせ活動の方法や工夫している点について紹介しあいました。学校やグループによって様々な取り組みがあり、大変興味深いお話を伺うことができました。例えば、読み聞かせの回数では毎週活動しているグループから月に一度程度の活動をしているグループがあったり、また読み聞かせの時間帯も朝自習の時間を利用する方法から中休みや昼休みまた授業時間に行う方法の例があったりしました。また、一人で行う読み聞かせや数人で行う読み聞かせなど読み聞かせの方法においても様々でした。

それぞれの学校の現状を報告する中で、ボランティアの募集の仕方、読み聞かせをした本や感想等の情報をメンバー間で共有する方法など活発な意見が出ました。募集をしたときは人数が集まっても時間が経つと読み手が減ってしまうという悩みは多くの学校が共通している事がわかりました。

子どもたちに多くの本を結びつける点から読み聞かせには図書室の本を利用し、そのことを子どもたちに伝えることが大切であるという意見も出ました。そして子どもが読みたい本を自分の力で探すことができるように、図書室の環境整備が必要であると感じました。

[グループC～図書環境整備～]

Cグループでは、横浜市全体の図書のネット化といった広域な話からこれから本格的に取り組むに当たってどのような点に注意したらいいか先輩ボランティアの方にアドバイスを求めるような身近な話など多岐に渡って話し合いました。

その中での共通点は、皆さんが読み聞かせのボランティアの経験から学校の図書館に足を運び、そこから学校図書館の環境整備の必要性を感じて図書環境

ボランティア活動を始めたことでした。毎週のように行う読み聞かせ活動で子どもたちが目を輝かせて聞いてくれる姿を見ると、「より子どもたちが利用しやすい図書館に」「子どもたちにより良い図書・読書環境を」と考え、その思いが図書ボランティア活動へのエネルギーとなるようです。

また、若手あるいはベテラン関係なく、ボランティアという立場において、学校あるいは校長先生の教育方針に沿って教育的な支援していきながらも、自分自身のボランティアとしての充実感や感動をどのように得るのかを問う点も共通する悩みでした。「図書委員の子どもの自主性の尊重」「図書教諭との打ち合わせ」「外商の書店との関わり方」など、学校という枠組みの中でボランティアとしての仕事の線引きが難しいということのようです。

最近青葉区内の小学校では児童数が増え、教室の数が足りなくなってきました。特別教室が普通教室になっていく中で、図書室の存在そのものが危ぶまれている学校もあるようです。図書室は子どもの読書活動の要ということで何とか守っていききたいという声も聞かれました。

最後に永年活動している学校のボランティアの方に、学校との上手なコミュニケーションの秘訣をお伺いしましたところ、「ボランティアとして謙虚であること」を挙げてくださいました。校長先生や司書の先生に足繁く図書室に顔を出していただいたり、子どもたちの図書室での様子や子どもの希望をお伝えしたりすることで、学校とコミュニケーションを図っているようです。

〔グループD～図書環境整備～〕

近年、学校図書館への図書司書の配置の重要性について様々な場面で提唱されています。そういった中で図書ボランティアの活動が盛んになると司書配置活動や学校の図書活動に対する姿勢が消極的になってしまうのではないかとの指摘がありました。図書館司書の役割も図書ボランティアの活動もどちらも子どもたちのために図書環境をより良くしようという趣旨なので、両立や役割分担も考えながら進んでいくのがよいのではないのでしょうか。司書制度の確立に向けてそれら活動に取り組んでいる人や組織として、学校図書ボランティアが図書環境整備や読み聞かせの重要性を提唱したり、このような横断的な交流会

で情報交換を行ったりすることも必要であるとの声もありました。

学校の図書に対する支援は、いろいろと学校の置かれた状況の違いによりそれぞれの学校で特色があります。今回のような横断的な交流で他校の取組みを知り、それを場合によっては応用し、連携して行くことは重要との意見で一致しました。

ブックトークのような技術を広めて行く事は、本を読むことの楽しさを伝える活動の技術としての意味だけでなく、学校図書や読み聞かせに対する理解を得る一つのモデルとしても位置付けることができるとの指摘がありました。

〔グループE～図書環境整備～〕

グループEでは、蔵書管理の取組みなどを中心に活発な話し合いが行われ、ほとんどの学校で棚卸の取組みがないことや、図書の分類、廃棄の方法等において学校により大きな格差があることなどが取り上げられました。

こうした問題点を解決していくために、各校のボランティア同士がこのような交流の場をもち、お互いの情報の交換をしあって学校へ持ち帰ることがとても大切になってきます。そして、図書委員の子どもたちの自主性を阻害しないよう配慮しつつも、忙しい先生方を手助けして、ボランティアの手による各校の図書室の基本的な水準が常に維持されていくことが期待されます。

一方で、図書ボランティアが大きく活躍することで、行政側が学校図書館司書の配置を遅らせるような判断をすることも考えられます。そのため、図書ボランティアの活動をきちんと記録として残し、学校図書館整備のために必要な「のべ人数」、「のべ時間」を示していくことが重要となります。

学校とボランティアつなぐ支援開始

「あおば学校支援ネットワーク」が今月15日に初イベント開催

児童の気分で「ブック
トック」を楽しむ参加者



ASNは、青葉区の「学校支援ボランティア・コーディネート」養成講座」修了者により今年度発足された団体。学校がボランティアを必要としながら、うまく接点を持てずにいることから、学校とボランティアを結び、学校で地域の教育

市立小学校と学校ボランティアとの橋渡し役を果たすことを目的に今年度発足した「あおば学校支援ネットワーク（ASN）」が、初のイベントとなる「学校図書館ボランティアの部屋」を、今月15日に山内地区センターで開催した。区内各学校の「図書ボランティア」に絞られた今回の情報交換会に、36人が参加した。

力を生かすことが目的。今回の企画は、ボランティアの中でも、各学校で図書環境整備や読み聞かせなどで活躍している「図書ボランティア」に焦点を当てたもの。各ボランティアから、図書環境整備の方法や課題が語られたり、読み聞かせとは異なる、1つのテーマに沿っていくつもの絵本を紹介する「ブックトーク」が披露された。図書ボランティアが、青葉区に限定して横のつながりを持つのは今回が初めて。ASNのスタッフ竹本靖代さんは「今回の交流会が、各学校での活動に活かされるとうれしい」と話している。今後、学校のニーズに合ったボランティア養成講座を企画する予定だという。

タウンニュース 青葉区版 平成 17 年 12 月 22 日号より



交流会の様子